

特集「ユビキタスコンピューティングシステム (IX)」の編集にあたって

井上 創造^{1,a)}

1988年にマーク・ワイザーによって、情報機器を意識せずに、いつでもどこでも利用できるというユビキタスコンピューティングの概念が提唱されました。それ以降、情報処理技術の発展にともない様々な機器にコンピュータが組み込まれ、また、スマートフォンやクラウドコンピュータとも連携して得られるビッグデータが機械学習により分析可能になり、様々なサービスにより人々の生活の支援を行うことができるようになってきています。現在はIoT (Internet of Things, モノのインターネット) という概念もよく聞かれるようになりましたが、ユビキタスコンピューティングはIoTも包括し、いかに人が意識せず人にとって有益なサービスを実現するか、ということを取り扱う研究分野となっています。そのため、取り扱う分野は非常に幅広く、センサデバイス、信号処理、ミドルウェア、ネットワーク、データマイニング、ヒューマンインタフェースやAIなどの工学分野から、さらには社会学や心理学などにも踏み込み、学際的に研究活動を行う分野となっています。

本特集号はこのような研究の推進を目的として、ユビキタスコンピューティングシステム (UBI) 研究会が企画しているもので、今回で第9回目となりました。UBI研究会の主査、幹事、運営委員を中心に構成した編集委員会での慎重な審議の結果、投稿数10件に対して、4件の論文が採択されました (採択率40%)。非常に優れた論文を採択できたものと考えます。

採択された論文のテーマは、IoTデータセットをシミュレーションしデータセットを生成する手法や、スマートフォンにおける通知を操作したタイミングを利用した行動認識アノテーション手法、足音と慣性データを用いた路面状況を認識する手法、センサを用いた社交ダンスの動作認識といった、ユビキタスコンピューティングの実現に向けて取り組まれている広範な研究から、質の高い研究論文を採択することができました。今後も、本特集号を継続していく予定ですので、投稿をぜひご検討いただければと思います。

最後に、本特集号の機会を与えてくださった論文誌編集

委員会の皆様、多忙にもかかわらず丁寧に査読していただいた査読者の方々、編集にご協力戴いた特集号幹事・編集委員の皆様へ感謝申し上げます。特に、特集号編集委員の皆様には、著者と査読者の間に入り、論文の採択に向けて多大なご助力をいただきました。その結果、高品質な論文を数多く採択することができました。心より御礼を申し上げます。また、何にも増して、ご投稿いただいた著者の皆様に深く感謝いたします。今回は残念ながら採択に至らなかったご研究についても、そのような積み重ねがあつてこそ、本文野が発展していくものです。本特集号が本分野のさらなる発展に向けた一助となれば幸いです。

「ユビキタスコンピューティングシステム (IX)」特集号編集委員会

- 編集委員長
井上創造 (九州工業大学)
- 幹事
村尾和哉 (立命館大学), 米澤拓郎 (名古屋大学)
- 編集委員
前川卓也 (大阪大学), 榎堀 優 (名古屋大学), 岸野泰恵 (日本電信電話株式会社), 新井イスマイル (奈良先端科学技術大学院大学), 池 司 (東芝), 石黒祥生 (名古屋大学), 磯山直也 (奈良先端科学技術大学院大学), 大内一成 (東芝), 大北 剛 (九州工業大学), 大越 匡 (慶應義塾大学), 大村 廉 (豊橋技術科学大学), 小川泰嗣 (リコー), 尾原和也 (NTT 研究所), 門村 亜珠沙 (パナソニック), 孔 全 (日立製作所), 佐野 渉二 (金沢工業大学), 島田敬士 (九州大学), 下坂 正倫 (東京工業大学), 是津耕司 (情報通信研究機構), 高木 雅 (東京大学), 寺田 努 (神戸大学), 土井裕介 (Preferred Networks), 中澤 仁 (慶應義塾大学), 中村 嘉隆 (公立はこだて未来大学), 中山 悠 (東京農工大学), 野間春生 (立命館大学), 樋口啓太 (東京大学), 廣井 慧 (名古屋大学), 藤波香織 (東京農工大学), 松井加奈絵 (東京電機大学), 水本旭洋 (大阪大学), 宮田章裕 (日本大学), 柳沢 豊 (m plus plus), 渡邊 拓貴 (北海道大学), 末代誠仁 (桜美林大学)

¹ 九州工業大学大学院生命体工学研究科
Kyushu Institute of Technology, Kitakyushu, Fukuoka 808-0135, Japan

^{a)} sozo@brain.kyutech.ac.jp